



# おちほ

<http://ochiho.noor.jp/>

第72号 平成24年3月25日 発行 社会福祉法人 椎の木会 落穂寮 発行者 太田正則

## ☆鬼は外・福は内☆落穂寮の節分!!



大きな声で、「鬼は外・福は内。」今年も節分の季節がやってまいりました。落穂寮では、少し遅れて2月5日に恒例の豆まきを行いました。鬼役の職員に対し、本当に怖がっておられる利用者さんもおられるたり、全く鬼とは違う方向へ豆をまいておられたりと賑やかな豆まきとなりました。

今年も、年男・年女のみなさんには袴姿になっていただき、「福」を呼び入れていただきました。

☆  
落穂寮流「恵方巻き」  
としまして、夕食にちらし寿司をおいしくいただけます。みなさん静かに同じ方向を向いて、食べられる訳もなく…。ワイワイ・ガヤガヤといつもと同じく賑やかな食事となりました!!

# 「発達」と「自然随順」

理事長 山下陽一

## 往時を熱く語る

二〇一二年、年頭の十五日、湖南省甲西図書館において、「糸賀一雄と近江学園」のテーマのもとにシンポジウムが開かれました。学園発足当時の先生たちや幾分後に学園で仕事をしてきた先生たち（中には約三十年前落穂寮の子どもたちを京大病院で診察していただいた北條先生も参加しておられました）が相集つてのセッションでした。北條先生もそうですが随分遠方から参加された方々もおられ、近江学園の往時を熱く語りあい大変貴重な話を伺うことができました。先生たちご自身が人生でもっとも燃え上がる青年時代をお過ごしになった実践は、今から比較すると大変なご苦労があったにもかかわらず、生き甲斐ある燃焼に生涯を決定した意識付けがあったことなどが話題となり、限られた時間では語り尽くせない内容の濃い時間を過ごすことができました。

## 発達保障論

『消シテハナラヌ世ノ光』（近江学園創立五〇周年記念誌）によると、田中昌人先生は一九六〇年度の近江学園職員有志による勉強会「土曜会」において「発達保障」による捉え方を提起されました。この経過について矢野隆夫先生の回想は厳しく「このことが、この時代の人にとだけわかっていただけだろう。また近江学園以外の人にとのくらしい理解された

のだろう。この時代、やれ一次元可塑だとか、形成過程だとか、二段ロケットだとか、むづかしいことばを職員がつかつていた」と幾分揶揄を込めて述べているのですが、糸賀先生もこの勉強会に参加されることもあったようで、発達に関する論理構成が精緻なこともあり先生の思想形成と活動の根拠を得て一九六三年、「子どもの発達の権利を保障するために必要な体制」として施設と学校の併設が必要であることのお考えをお示しになりました。しかし、学園内にあつて極めて精緻な発達保障論が現場の教育指導論の骨格として本場に統一されていたのか疑問を感じています。

## 自然随順の思想

園児の指導にあたっておられた中村健二先生は「近江学園と私」（記念誌）の中に田村一二先生のことばを次のように伝えています。

「糸賀ハンは天馬や、遮るものを蹴飛ばして駆け抜けハル、傍に居る部下は足跡を追いすがえ見失う、せめて、尻尾の先でもつかまえていたが、振り切られる。ただ天空を駆けハルのを、アレヨ、アレヨと見ているだけ、チョットはゆっくりして下さい。タノミマス」

これは「発達保障論」について田村先生のお考えを述べているのではありませんが、その観点は糸賀先生がさまざまに

率いていた諸活動の根幹において一貫性があったものと推測できます。

私は田村先生が心理学的発達の概念で子どもたちを捉えていたとは思えないのです。すなわち、人の生涯において発達課題があり、発達段階を一段いちだんと踏み上げるように発達形成するという人間観をお持ちになつていたとは思えないのです。

先生は独自の造語を使って生きていることの新しい概念を伝えようとされました。「自然随順」に象徴されているように、自然による育みの重要さを一貫して訴えられていたように思います。また、「差ありて別なし」ということばは人間観の基本的姿勢を示そうとされたのでしょうか。学園内で発達保障論華やかなとき、田村先生は副園長をしておられた時期と少し重なります。そのときの糸賀・田村両先生相互の動向については明らかになつていないようです。

田村先生の晩年に「二つ一つ」という概念が示されました。私は直接伺うことができませんでしたが色紙になつていたのでそれをお持ちの方もあつたでしょう。この概念は天理教のドグマの一つなのですが、西洋思想とは少し違う極めて興味深い内容を持つているものです。

「差ありて別なし」は相反する行いが伸良く手をつないで並んでいて、事と状況により「別なし」となるのではないのです。これは二つの事象が次元を異にして一つである、という構造を示しているのです。たとえるなら、箱（パンドラの箱でも可）を風呂敷が包むといったイメージに似ています。「差あり」というのは箱であり、「別なし」というのは風呂敷のようなもので「包まれる」と「包む」という次元を異にして関係しているものとい

えるでしょう。

このように考えると先に述べた「二つ一つ」は、「差ありて別なし」と同じことで、図示化すると、ちよつと離れた焦点を二つ持つ楕円のようなことではないかと思ふのです。

近江学園という実践のなかにあつて、糸賀・田中両先生の発達論を根拠に人が成長形成していくという社会への訴えがなされ、一方田村先生は生きていくことの捉え方で天地自然が万物を生じ育む（化育）という観点は、異なつた焦点が二つある楕円体の構造をしていたと解釈できるのではないのでしょうか。

## 「自覚者が責任をもちます」

糸賀先生が講演会の途中でお連れになる二か月前、一九六八年七月、まみず会主催の「夜明け前の子どもたち」の映写会での講演で次のようなことばが残されています。

「日本の国に本当に輝きがいりますように、世界が本当に平和と喜びに満ちますように、自覚者が責任を持ちます。」

（著作集Ⅲ 297）

先二つのことばはまさに「折り」であり、後は「誓い」のことばそのものだと思います。「自覚者が責任をもちます」という誓いは「発達」と「化育」というお二人の観点に差はあつたとしても、自覚者として焦点が二つある楕円体のような実践があつた近江学園、これこそ次の世代に引き継がなければならない意思ではないかと確信しています。

（二〇二二・二・二）



## 施設長 太田正則

旧年中は大変お世話になりました。ありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の大震災からはや一年が経ちました。未だに多くの方の行方が分からず、また、復興というには程遠い状態ではありますが、公私ともに引き続きいろいろな形で支援に関わらせていただければと思っております。みんなで力を合わせて、心を合わせていきましょう。

さて、落穂寮は一昨年六十周年を迎えました。誕生の経緯は前寮長の中嶋貴一郎氏がこの紙面で伝えていますが、六十一年目を施設長として迎え、同様に一年が経とうとしております。微力な私を職員はじめ多くの方々の支えのおかげで、何とかやり過ごせた一年であったと感謝申し上げます。

この六十一年の間、措置の時代から支援費制度、そして自立支援法にかわり、今、障がい者総合福祉法へ変わろうとしています。この間、落穂寮も児童施設から成人施設へと移行しました。私は社会科の教員免許を持ちながらも、歴史を学ぶことにあまり意義を感じることがなかったのですが、昨年一麦寮の五十周年記念誌を拝読させていただき、これからの落穂寮の方向性を考えるとき、これまでの経緯をしっかりと認識する必要があります。少し振り返りたいと思います。

私が勤めた当時（一九八六年頃）滋賀県に知的ハンディを持つ人（視覚障がい・重度身体障がい）を併せ持つ人（を除く）を対象とした入所施設は十施設。その中で、唯一民間の重度・最重度を対象とした児童入所施設は落穂寮だけでした。そのため滋賀県全域を対象として、生活訓練と治療と教育の一

体的な支援が必要という本当の意味で特別な支援が必要な児童が入所利用されてい

ました。八十名定員で指導員・保母は二十三人。三・五人に一人の割合という職員配置で、三十人の児童を一日六人の職員で看るということもありました。当時は全員が学

籍児の男女棟、半分が十八歳以上の成人男子棟と成人女子棟の三棟体制で運営され、食堂や浴室は別棟にありました。渡り廊下はもちろん、風雨を防げるようなものはなく、食事や入浴のたびに靴を履いて移動し、雨が降っても雪が降っても、台風が来ても移動せざるを得ない状況にありました。

今の時代では考えられないことも少しありません。しかし、その環境には、自然に子供たちが身体機能を維持・強化し、身辺自立に向けた生活訓練をする機能を持たせることを狙ったものでした。事実、一日に何十回と靴を脱ぎ履きしたことで中学生のある時に突然自ら履くことが出来た且君に、職員全員が感動したことを覚えています。

階段や坂道が多くバリアフリーに一番遠い施設かもしれないですが、その環境整備の在り方が当時の療育を実現させていたのではないかと思います。

昭和五十四年に養護学校義務化により、どんな障がいを持つ子供でも学校に行くことが出来るようになって入所対象児が減少する一方、県内の各地域に成人施設が建てられ、それぞれの地域に戻られた利用者もおられました。人数の関係や重い障がいゆえに十八歳を過ぎても寮に残る人が増えていき、寮でも成人を対象とした日中活動の取り組みが始まりました。しかし、休みの職員を除くと一日六人の職員では日中活動に携われるのは頑張っても三人。支

援者一人に対して利用者六人ではできないとは限られ、生産作業活動と言えるものはありませんでした。それでも利用者の充実した生活と職員は活動内容を工夫したり、職員のモチベーションを高め、広く社会の皆さんに知ってもらうために石部文化ホールを借りて作品展を実施したりしていました。

その後福祉は地域生活支援に重点が置かれ、いつしか入所施設は地域生活の対義語のような構図が出来ていたように思います。しかし寮には、その地域生活支援重視の社会において、地域生活が困難になった児童が入所して最重度の障がいを持つ人の対応できていた最重度の障がいを持つ人の支援から、複数の職員体制での支援が必要ない児童が増加し、成人の日中活動と強度行動障がいへの対応という二つの大きな問題を抱えることになっていました。幸い三棟に分かれていたため、何とかそれぞれで課題の解消に取り組みながら、現員の減少に伴う措置費減少には、定員変更で対処して

しました。しかし、建物が児童対象に作られたものであること、老朽化していること、そして時代のニーズがそこにあることを理由に成人施設として生まれ変わることになりました。

さて、建設に際しての主なポイントは個室、少人数対応のユニット、食事や入浴時の安心安全で快適な移動でした。高齢化、重度化を考慮し、これまでの自然を生かした療育方針では支援が難しいと判断したので、特に現在では当たり前になったユニット制は、周囲の影響を受けやすい自閉症の方の安定した生活にはぜひ実現したいポイントでした。しかし、無断外出、異食、自傷、他害、破壊等一対一以上の支援が必要な利用者が三割を占める状況では二十人の職員でのユニット制は考えられませんでした。言い訳になりますが、結局、限られた職員で利用者の支援ができる建物、つまり管理しやすい建物にせざるを得なかったの

です。

こうして平成十二年、知的障がい者入所更生施設落穂寮は、定員五十名、支援員二十名でスタートしました。食事と日中活動は六対一の支援を確保しましたが、その分、それ以外の時間は少なくなりましたが、多岐のことに制限せざるを得ない環境でした。

平成十八年、障がい者福祉は、障がい者自立支援法へと変わりました。寮も平成二十年に新体系に移行し現在に至ります。一昨年には一・七対一の人員配置体制に変更し支援員の数も三十二人に増え日々の支援に携わっています。落穂寮にとって、利用者個々に必要な支援が提供できる制度変更は、大変意義のあるものでした。支援員増加が支援の質の向上に百パーセント繋がっているかと言えはそうではありませんが、今日まで関わって下さった多くの支援員のおかげで、利用者の方々も少しずつ落ち着けるようになってきています。今やつとそれらを考えられる環境が整えられたと思っております。ただ、環境の変化に変わりはあります。発想の転換や視点の変更でこの変化に如何に対応できるかが私たち支援員に求められる資質なのです。

今落穂寮は、生活の場と活動の場を明確に区別して利用者のQOLの向上を目指しています。これまで程遠かった生産活動にも取り組みたいと考えています。ただ、この活動場所の確保にも築四十年以上の建物がいくつかあり、改築を余儀なくされており、更に特徴的な自然環境が大きく影響を及ぼしています。

今年度採用職員（座石の銘に「できるかできないかではなく、やるかやらないかだ」というのがありました。これ以上突っ走るなと言われながらも、背中を支えてくれる言葉です。あれもこれもと欲張るわけではありませんが、これからも地域に在る法人施設として活動していきますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



ドライブ in 香川  
淡路  
姫路  
(1泊2日)  
10月



モクモクファーム  
(日帰り) 9月



味覚狩り&南京町 in 兵庫県  
(1泊2日) 10月



みかん狩り in 宇治  
(日帰り) 10月

演芸鑑賞 in 名古屋  
(日帰り) 10月



成田ふれあい牧場  
(日帰り) 11月



染め物体験 in 石川県  
(1泊2日) 10月



宮島&秋芳洞  
(1泊2日) 8月

THE 体験 in 香川  
(1泊2日) 9月



太秦映画村  
(日帰り) 1月



ドライブ&イチゴ狩り in 三重県  
(1泊2日) 12月



海水浴 in 安楽島  
(1泊2日) 9月



ハッピードリームサーカス in 和歌山  
(1泊2日) 11月



東京モーターショー  
(2泊3日) 12月



志摩スペイン村  
(1泊2日)  
11月



梨狩り in 石川県  
(日帰り) 9月



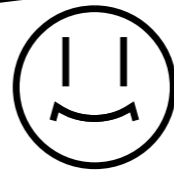
梅小路公園  
(日帰り) 11月

工場見学(1泊2日) 12月



つじあやのコンサート in USJ  
(1泊2日) 12月

# 2011 リフレッシュ旅行



★バルーンアート★



★ダンス班★



★職員有志★



★音楽班★



①コースランチ

②出し物1部

★私も主役!!

★劇『浦島太郎!?!』

③出し物2部

★実習生バルーンアート

★ダンス班

★職員有志

★音楽班

お楽しみの

プレゼント渡し★

★コースランチ★



★私も!!とマイクをにぎって発表会



★職員劇 THE 浦島!! ★



プレゼント渡し★

今年も12月25日にクリスマス会が行われました。まずはコースランチ♡とっても美味しいランチに皆さん大満足!食後は沢山の出し物を各々に楽しまれました。夕食後には大きなケーキも頂きました。そして待ちに待ったプレゼントタイム♡サントさんとトナカイさんからステキなプレゼントが届き、皆さんとっても嬉しそうでした♡今年も楽しいクリスマス会となりました。



大きなプレゼント♡サントさんから何が届いたかな?



# お餅の祭典、 来たる



込めつつ職員と一  
緒に重い杵を持っ  
て餅をつきました。

去る12月6日、日赤奉仕団  
の13名の方々が餅つきに  
来て下さいました。数年ぶりに  
つきたてのお餅が食べられ  
るとの事で、寮全体で楽し  
みに待ちわびていました。

朝から食堂横にはもち米  
が蒸される良い匂いが流  
れてきており、利用者さん  
も昼食が待ちきれない様子  
でした。本格的につき始め  
ると、利用者さん達も餅つ  
きに参加され、ベテランの  
母様方に見守られながら、  
スピード感はないものの、  
おいしくなあれの願いを  
おこすことができました。



▲餅つき後の皆さん  
奈々さんも、潤くんもベッタン ベッタン!! ▼



落穂寮での数年に一度の  
お餅の祭典は、今回も利用  
者さんと職員の笑顔いっ  
ぱいで幕を閉じました。

またの訪問を願いつつ、  
首をながくして待つてい  
ます。おいしいお餅をあり  
がとうございました。



# ランプ交換



▲食堂の高さも  
高いところ  
のスイッチ  
とス

今年も、  
NEC労働  
組合のみ  
さんが落  
穂寮へラ  
ンプ交換  
に来て

下さいました。古くなった蛍光灯を交換してもら  
たり、照明器具の手入れをしていただけました。  
寮内もすっかり明るくなりました。毎年、このラ  
ンプ交換が終わるとお正月もすぐそこ、新たな気  
持ちで新年を迎えるこ  
とができるのもNEC  
労働組合の皆さんのお  
かげです。新たに届  
けてもらった光の下、利  
用者さん、職員共に今  
年も頑張っていきたい  
と思います。



▲お疲れ様でした

ありがとうございます  
でした。

# 「協力ありがとうございます」

社会福祉法人権の木会及び落穂寮の運営にご協力いた  
た方に、この場を借りて御礼申し上げます。今後も変わらぬ  
ご支援、ご協力をお願いいたします。(敬称略)  
寄付金 石部南区区まちづくり協議会  
物品の寄付

- 北村康雄 平岩美晴 坂本充男 早坂雅美

ありがとうございます。

# 泉

▼障害者自立支援法の大幅な改正、も  
しくは廃止などが行われるものと思わ  
れていましたが、どうやら、雲行きが  
怪しくなってきたようです。落穂寮を  
利用される方にも直接関わってくる問  
題です。しっかりと注視していきたいと  
思っています。

落穂寮では、新たな事業を動かし始  
めて約2年が経ちました。今までより  
も多くの方が、落穂寮を利用されるよ  
うになり、毎日がとても賑やかになり  
ました。来年度も安心して使用してい  
ただける施設を目指していくために  
も、皆様のご指導、ご支援を賜りま  
すようよろしくお願い致します。

# 木言

- 聞こえていますか？
- 花の開く音が
- 見えていますか？
- 芽の伸びていく様が
- 気づいていますか？
- 世界が毎日変化していることを
- あなた自身が
- それを知ろうとしていますか？